

月刊

モンキー！

動物園版

2

2016

毎月10日発行

カラー版はかみね動物園
ホームページをチェック！

2016年は申年

かみね動物園で暮らす
15種類のサルたちを
毎月紹介



今月のピックアップモンキー

ニホンザル

英名 Japanese Monkey 学名 *Macaca fuscata fuscata*

霊長目オナガザル科

スノウモンキーとも呼ばれ、ヒト以外で最も北で暮らす霊長類です。

寿命は約25～30年。雑食性で、冬は樹の皮なども食べています。

☆ここに注目☆

干支の申は



猿なのか？

まず疑問に思ったのが、申という漢字は、普段の生活の中で、『サル』と言わないよな一っと思っていました。そこで調べてみると、本来の干支の申は『果実が熟して固まっていく様子』を表しているそうです。

動物の名前を当てはめたのは、覚えやすくするためだったみたいです。(※諸説あります)

日本では、申というとニホンザルを想像しますよね。干支ができたのは、古代の中国です。古代の中国には、ニホンザルはいません。古代の人々は、どの申を想像していたのでしょうか。中国というと、アカゲザル、チベットモンキーはたまた、キンシコウ、テナガザルでしょうか？想像つきません。。。

この地球には、私たち人間も含めて、約300種のサルがいます。動物園には、15種います。アナタにあった申をみつけてみてください！！

かみね動物園のニホンザル出身地

島根県です



1969年(昭和44年)に島根県の山から群れごとやってきました。当時は、43頭でしたが、今では、約110頭が動物園で暮らしています。かみね動物園のある茨城県は、約50年前にニホンザルの群れがいなくなったとされています。(群れから逸れた、ハグレザルは目撃されています)

ニホンザルのボスどれ?! 問題...



結論から言うと、『ボスはいません』!!

個体同士の優劣は存在しますが、優位なオスが複数のメスを独占するようなことは、ないということです。実際に優位なオスは、体が大きく、毛艶が良く、尻尾を上げて劣位個体を追いかける様子が確認されています。また、動物園には、このようなオスが複数頭存在します。

しかし、優位なオス同士の闘争は、確認されていません。

これらの理由によって、かみね動物園では『ボスはいない』と判断しています。

近年、野生のニホンザルもボスザルは、存在しないという考え方が広まっています。

(各施設で考え方は違うようですが...)

ボスという言葉からわかるように、昔から人間社会の縮図を群れで暮らす

ニホンザルに当てはめてしまい、

こういった考えが定着してしまったのかもしれませんが。



おしらせ

ニホンザルは繁殖制限中です。

理由は、飼育面積と飼育頭数のバランスを保つためです。

現在観られている子供達は2014年生まれです。この子供たちを最後にしばらく繁殖予定はないはずですので、今が子供を観るチャンスです。

飼育員の一言

少しでも、ニホンザルについて興味を持って頂けたら、幸いです。私も普段伝えきれていないことを書きましたが、まだまだ、書き足りないなと思うのが正直なところです。私に簡潔にまとめられる文章力があれば、と思いつつ反省はしていません。またの機会に伝えられればと思います。お楽しみに!!

ニホンザル担当

